

## 非燃焼・加熱式タバコや電子タバコは安全ですか？

原田 正平

聖徳大学児童学部 児童学科

【目的】2005年に発効した「たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約」は、全ての「タバコ製品」、すなわち全部又は一部が原材料としての葉タバコから成るものを規制対象としているが、同時期に開発された「電子タバコ（E-Cigarette）」はニコチン含有溶液をエアロゾル化して吸入するため、必ずしも規制の対象となっていない。それに加え、葉タバコを燃焼させず、一定の温度に加熱する「非燃焼・加熱式タバコ（Heat-Not-Burn Tobacco Product：HNBタバコ）」も開発、販売され、国内外で混乱が生じている。そこでこれら製品の概要を整理し、安全性を中心とした文献的検討を行った。

【方法】医中誌Webで「電子たばこ」「加熱式タバコ」を検索し、それぞれ140件、150件の論文、抄録が得られ、Pub Medでは、「e-cigarette」「heat-not-burn」で検索し、それぞれ3,252件、81件の論文が得られた。その中で安全性に関連すると思われる主要論文について検討を行った。

【結果】 1. 電子タバコ：ニコチン入りカートリッジは日本では、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（薬機法）」（旧薬事法）により規制され、国内販売できない。国外では、ハームリダクション（harm reduction）の観点から電子タバコを推奨する政策が英国では取られている。米国では規制対象となっているが、若年層で使用が急速に広がり重大な公衆衛生上の懸念となっている。2. HNBタバコ：日本国内では2016年4月に一般の販売が開始され、紙巻きタバコと同じ扱いになっている。国外では、安全性が証明されていないとして販売が主要国で許可されず、先発のHNBタバコの約9割が日本国内で消費されていると報告されている。安全性の検討は、エアロゾル中の有害物質を紙巻きタバコと比較する方法がとられ、タバコ会社の宣伝する有害物質9割減の欺瞞が指摘されている。3. 誤飲事故：海外ではニコチン入りカートリッジの誤飲による小児の死亡例が報告されるなど、誤飲事故の急増が問題となっている。日本ではHNBタバコの誤飲が2016年以降急増し、日本中毒情報センターのデータによると、紙巻きタバコの誤飲相談件数を上回り、入院例も報告されている。

【考察】電子タバコ、HNBタバコは安全な製品ではなく、短期長期の健康影響を勘案し、適切な規制政策を考えるべき時期にある。